

調査報告

下仁田町馬山地区の下位段丘群の区分

Division of lower Terraces in Mayama, Shimonita-machi, Gunma

中村由克^{*1}・斉藤尚人^{*2}・小林忠夫^{*2}

Yoshikatsu Nakamura, Naoto Saito and Tadao Kobayashi

キーワード：段丘，第四紀，地形面，鐮川

Key words : terrace, Quaternary, geomorphic surface, Kabura river

はじめに

鐮川は富岡市より上流部ではほぼ東西方向に流路をもつが，馬山の不通溪谷から下小坂に至る間で流路が大屈曲している．この原因を解明するため下仁田自然学校では，基盤地質と第四紀地質の両面からアプローチすることになり，本報告は第四紀の段丘形成と鐮川の流路との関係を解明するための調査研究の第1報である．

下仁田地域の鐮川流域の段丘は，町田（1963），新井（1986），群馬県（1994），須貝（1996）などで報告されており，中村・金剛萱遺跡研究会（2018）はおもに新井（1986）に従って馬山地域を模式地として段丘を上位段丘と下位段丘に区分した．これは，須貝（1996）のQ2面，Q3c面に相当する．これを受けて上杉・竹本（2000）は，馬山の低位段丘を新鮮な礫より構成される最終氷期中に形成された低位段丘群（立川面群）に対比し，概ね2.5万年前頃（現在は約3万年前と考えられる）から離水を開始し，晩氷期海進末期（1.1万年前；現在は約1.5万年前と考えられる）までに離水を完了したと推定した．

本稿では，下位段丘が複数の地形面から構成されるので「下位段丘群」と再定義し，典型的に下位段丘群が発達する馬山地区の地形面の細分と分布を報告する．なお，段丘の形成時期等については今後の調査課題として残される．

下位段丘群の区分

下位段丘群は馬山の最上流の石渕で模式的にみられ，この場所の段丘を下位より1面から5面に区分した．石渕の各地形面の現河床面からの比高は，下流域に比較して小さい傾向がある．1面 11 m，2面 14 m，3面 18 m，4面 21 m，5面 26 mである（第1図・第2図）．第1図に段丘層序，第2図に地質図を示す．

不通溪谷の南に位置する堀ノ内では，1面がみられずに6面がこの場所だけに分布し，石渕と堀ノ内の間では5面が唯一連続する．

竹ノ上から天神森にかけては，鐮川の近くに1面より低い地形面が断続的にみられるので，0.9面，0.5面を設定したが，名称等については便宜的である．各段丘面の比高は，0.5面 5 m，0.9面 20 m，1面 26 m，2面 25～31 m，3面 34～36 m，4面 38～39 m，5面

2021年3月1日受付．2021年3月4日受理．

*1 下仁田町自然史館 群馬県甘楽郡下仁田町青倉158-1 (naka-m@opal.plala.or.jp)

Shimonita Museum of Natural History, 158-1, Aokura, Shimonita-machi, Kanra-gun, Gunma, 370-2611 Japan

*2 下仁田自然学校 群馬県甘楽郡下仁田町青倉158-1 下仁田町自然史館気付

Shimonita Natural School 158-1, Aokura, Shimonita-machi, Kanra-gun, Gunma, 370-2611 Japan

段丘区分		比 高		主な分布
		堀ノ内	竹之上～天神森	
完新世／後期更新世	下位段丘群	0.5面	5 m	河川沿いに小分布
		0.9面	20 m	馬山神社北側の畑地に広がる
		1面	26 m	只川橋南側に広がる
		2面	25 m 29-31 m	馬山小学校跡がある面
		3面	36 m 34 m	堀ノ内に広がる
		4面	38 m 39 m	国道より一段下の面
		5面	39-41 m 42-44 m	国道254号に沿って広がる
		6面	44 m	安楽地にのみ分布
	上位段丘	90 m	80 m	馬山丘陵に分布

第1図
馬山地区の段丘層序



第2図
馬山地区の段丘の分布
番号は段丘面の区分を表す
点線：主要な道路

39～44 m, 6面 44 mである。各段丘の比高は第2図に示すが、堀ノ内（上流）と竹ノ上～天神森（下流）では、下流域ほど比高が大きくなる傾向がある。

また、南から鎗川に合流する横瀬川の流域には1面から5面の段丘が小規模に分布している。

まとめとあとがき

1. 下仁田町の馬山には下位段丘群が広く分布しており、1面から6面の6段に分けられ、さらに局部的には0.5面、0.9面が設定される。
2. これらの段丘面の形成時期については、今後のさらなる調査課題である。
3. 本調査にあたっては、下仁田町自然史館および

下仁田自然学校に便宜を受けた。関谷友彦氏、高橋真理子氏には野外調査に参加いただいた。これらの方々記して感謝する次第である。

文 献

- 新井房夫（1986）鎗川・碓氷川および烏川流域。大森ほか編、日本の地質3・関東地方、181-182。
- 群馬県（1994）土地分類基本調査・富岡。国土調査、64p。
- 町田 貞（1963）河岸段丘—その地形学的研究—。古今書院、244p。
- 中村由克・金剛萱遺跡研究会（2018）下仁田の段丘と遺跡。下仁田町自然史館研究報告。2、23-26。
- 須貝俊彦（1996）関東山地北部、鎗川における河成段丘発達史。日本第四紀学会講演要旨集、26、102-103。
- 上杉 陽・竹本弘幸（2000）関東北西部、鎗川中下流部段丘地帯に出現した中位段丘構成層と浅間系テフラ群を切る新露頭紹介。関東の四紀、23、9-18。